

近くの幸せ

新見市立新見南中学校

三年 藤井里菜

私は以前から家族で旅行に行きたいと思っていました。旅行に行けば、普段は体験できないことを家族みんなで共有できるし、笑顔あふれる時間が増えると考えていたからです。旅行はきつと、家族の絆を深め、忘れられない思い出になるにちがいないと、ずつと憧れていました。

しかし実際には、親の仕事の都合や姉、弟の予定などがなかなか合わず、気付けば家族全員で遠くへ旅行へ行く機会はほとんどなくなっていました。テレビや友達との会話の中で家族旅行の思い出を楽しそうに語る姿を見ると、正直うらやましい気持ちになったこともあります。

けれど、そんな私の気持ちを変えてくれたのは「旅行に行かなくてもできる家族との時間」に気づいたことでした。私の家族は月に一度あるかないかくらいの頻度で、少し遠くの町へ出掛けます。そこには回転寿司や串カツのお店があり、私たちにとつてはちよつと特別なごちそうです。大きなショッピングモールもあり、服を買ったり私の住む地域にはないお店に入ったりもします。お出掛けのときは、普段よりも会話が弾み、移動の車の中でも自然と笑い声が

増えます。短い時間ではありますが、私にとってはそのひとときがとても温かく、心に残ります。

また、家で過ごす何気ない時間も私にとっては大切な思い出になっています。家族で協力して夕飯を作ったり、トランプやカードゲームで盛り上がりたりすることがあります。誰かが料理を失敗するとみんな呆れます。でも私はそんな様子もおもしろくて楽しくて大好きです。カードゲームでは週末にみんながお風呂を済ませて布団に入るまでのちよつとした時間に遊びます。勝ったり負けたりで大笑いしながら過ごすその時間は、旅行に行かなくても十分楽しいものです。私はそのとき家族と一緒にいるだけで安心できるし楽しいことに気づきました。何もなくてもみんなでドラドラしているだけで安心できるし、その間にも家族の絆は深まっているのではないかと思いました。

以前の私は、「旅行のような特別な出来事こそが家族の絆を深める」と思っていました。しかし今は違います。たとえ旅行へ行かなくても、買い物に行ったりご飯を食べに出掛けたりする時間や家で過ごす何気ない日常の中にこそ、家族の明るさやあたたかさがあると気付きました。そして普段の会話や笑顔の大切さを改めて実感しました。最近はずれ忙しく、顔を合わせる時間が減ってきましたが、同じ空間で過ごすだけで日々の生活を頑張ろうと思えます。

これから先、私は大人になって家庭を持つ日が来るかも

しれません。そのときは、豪華な旅行も良いですが、今の家族のように何気ない日常を大切にできる家庭を築きたいと思います。どんなに予定が合わなくても、笑い合える時間を工夫してつくり、明るい家庭を守りたいです。

私にとって「明るい家庭」とは、特別なことがなくても、家族と一緒に笑い合え、安心できて楽しい家庭です。旅行という夢は叶っていませんが落ち着いて遊びに行ける日が来るまで焦らず今の暮らしを大切にしたいと思います。それよりも私は「何か特別なことをしなくても家族といるだけで幸せ」という大きなことに気づくことができました。

私は最近、家族と過ごす時間の大切さをより強く感じるようになりました。ニュースを見ると、戦争や災害などで家族と離ればなれになってしまった人々の姿があります。そのたびに、今こうして家族と一緒にご飯を食べたり、笑い合ったりできることが、どれほど幸せなことかと気付かされます。

また、私自身もこれから進学や就職で家を出るときがきます。そうなれば、今のように毎日顔を合わせて過ごすことは難しくなるでしょう。だからこそ、家族と過ごす一瞬一瞬を大切にしていきたいと思います。たとえそれが短い会話や夕食の時間であっても、その積み重ねは私を支える大きな力になるはずです。

家族と過ごす時間には限りがあります。しかし、その限られた時間の中で互いに笑顔を向け合えることこそが、

私にとっての一番の幸せであり、「明るい家庭」の姿だと感じています。